

3. 主要事業の概要

【事業規模(事業費)】

(単位:千円)

事業名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 予算	備考
① 奨学資金貸付事業	2,342,961	2,069,769	1,962,633	2,146,378	高等学校、専修学校(高等課程)等に在学する生徒に対する奨学資金の貸付事業
全事業合計に占める割合	75.7%	73.1%	72.6%	71.9%	
② 入学時増額奨学資金貸付事業	667,350	677,900	660,090	755,350	高等学校、専修学校(高等課程)等に入学する生徒に対する入学資金の貸付事業
全事業合計に占める割合	21.6%	23.9%	24.4%	25.3%	
③ 育英会特別事業	83,010	82,885	80,573	84,500	①USJからの寄附金を活用したUSJ奨学金給付事業 ②府民からの寄附金を活用した夢みらい奨学金給付事業 ③府立大阪南視覚支援学校へ教育用機材等を寄贈する教育環境整備支援事業 ④児童養護施設等に入所している者への特別奨励金給付事業
全事業合計	3,093,321	2,830,554	2,703,296	2,986,228	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		令和4年度実績	令和5年度計画	
1 奨学資金貸付事業	1-(1) 新規採用学生	1-(1) 貸付人員 5,905人	1-(1) 予算人員 6,197人	
	1-(2) 継続奨学生	1-(2) 貸付人員 10,948人	1-(2) 予算人員 11,433人	
2 入学時増額奨学資金貸付事業	2 高校等入学資金	2 貸付人員 4,087人	2 予算人員 4,363人	
3 奨学金等返還金の回収	3 奨学金等返還金の回収	3 回収額 6,301,314千円	3 回収予定額 5,462,330千円	
4 育英特別事業	4-(1) USJ奨学金給付事業 しっかりとした将来への夢を持ちその実現に向けて非常に強い向学心がありながら経済的な理由により学習環境に恵まれない高校生に奨学金を給付する。	4-(1) USJ奨学金の給付 給付人員 31人 給付額 15,000千円	4-(1) USJ奨学金の給付 予算額 15,000千円	
	4-(2) 夢みらい奨学金給付事業 将来の夢を見据え、自らの得意分野を生かして努力している創造性豊かな高校生に奨学金を給付する。	4-(2) 夢みらい奨学金の給付 給付人員 127人 給付額 59,400千円	4-(2) 夢みらい奨学金の給付 予算額 60,000千円	
	4-(3) 教育環境整備支援事業 府立大阪南視覚支援学校に対し教育用教材等を寄贈する。	4-(3) 教育用機材等寄贈実績 乗用玩具他 173千円	4-(3) 教育用機材等贈呈 予算額 2,000千円	
	4-(4) 特別奨励金給付事業 児童養護施設等に入所している者等で、大学等に進学する者に特別奨励金を給付する。	4-(4) 特別奨励金の給付 給付人員 60人 給付額 6,000千円	4-(4) 特別奨励金の給付 予算額 7,500千円	
5 施設整備資金貸付金の回収	5 財団法人大阪府私学振興会(※平成14年度末に解散)の貸付債権を管理・回収する。なお、令和4年度末をもって、債権の回収終了。	5 回収件数 4法人 4件 回収額 26,000千円 債権残高 0円		

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 予算	補助金、委託料等の内容
補 助 金	483,650	519,107	490,620	557,188	
運営費補助金	483,650	519,107	490,620	557,188	運営補助金、利子補給金、償還費補助金
委 託 料	0	0	0	0	
貸 付 金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
合 計	483,650	519,107	490,620	557,188	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	3,882,050	2,133,118	382,186
府借入金残高(期末)	36,264,190	36,192,686	36,121,182

5. 財務状況

(単位:千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	44,083,384	42,811,135	41,290,169	△ 1,520,966	<p>(特定資産) 特定資産の減少については、奨学金及び入学資金の返還による奨学基金積立資産の増(2,972,980千円)等の増要因があった一方、当年度の返還金が奨学金貸付額を上回ったことによる奨学貸与金の減(3,743,376千円)等の減要因が増要因を上回ったことが主な要因である。</p> <p>(その他固定資産) その他固定資産の減少については、新規に投資有価証券を取得(100,000千円)した一方、既存の投資有価証券が満期償還(333,000千円)されたことによる減が主な要因である。</p> <p>(短期借入金) 短期借入金の減少については、金融機関借入金の約定返済による減(1,635,000千円)によるものである。</p>
	流動資産	3,100,408	4,291,696	3,725,418	△ 566,278	
	現金預金	3,048,482	4,263,313	3,723,096	△ 540,217	
	未収金	2,303	1,979	2,166	187	
	その他流動資産	49,623	26,404	156	△ 26,248	
	固定資産	40,982,975	38,519,439	37,564,751	△ 954,688	
	基本財産	100,000	100,000	100,000	0	
	特定資産	39,798,907	37,174,387	36,451,412	△ 722,975	
	その他固定資産	1,084,069	1,245,052	1,013,339	△ 231,713	
	負債合計	41,674,772	39,882,800	38,078,742	△ 1,804,058	
	流動負債	1,957,060	1,949,500	328,601	△ 1,620,899	
	短期借入金	1,820,436	1,822,436	187,436	△ 1,635,000	
	未払金	75,004	88,125	75,530	△ 12,595	
	その他流動負債	61,620	38,939	65,635	26,696	
固定負債	39,717,712	37,933,300	37,750,141	△ 183,159		
長期借入金	39,680,304	37,857,868	37,670,433	△ 187,435		
各種引当金	37,025	42,772	43,751	979		
その他固定負債	384	32,660	35,957	3,297		
正味財産合計	2,408,612	2,928,336	3,211,428	283,092		
指定正味財産	573,348	567,424	727,922	160,498		
一般正味財産	1,835,264	2,360,912	2,483,506	122,594		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)					
	経常収益	603,677	596,179	585,645	△ 10,534	
	基本財産運用益	206	206	479	273	
	特定資産運用益	2,358	1,519	1,257	△ 262	
	事業収益	90,676	66,354	70,711	4,357	(受取補助金等)
	受取補助金等	428,612	444,261	430,959	△ 13,302	受取補助金等の減少については、延滞金収入の増(5,031千円)、借入金支払利息の減(3,880千円)などが主な要因である。
	受取寄付金	76,800	77,791	76,900	△ 891	
	その他の収入(受取利息収入等)	5,025	6,048	5,339	△ 709	
	経常費用	608,850	606,466	595,120	△ 11,346	
	事業費	563,272	560,311	546,380	△ 13,931	
	管理費	45,579	46,155	48,740	2,585	
	当期経常増減額	△ 5,174	△ 10,287	△ 9,475	812	
	経常外収益	465,481	595,666	188,598	△ 407,068	(経常外収益)
	経常外費用	74,847	59,660	56,460	△ 3,200	経常外収益の減少については、貸倒引当金戻入益の減(391,881千円)が主な要因である。
	減免損	74,847	59,660	56,460	△ 3,200	
	当期経常外増減額	390,635	536,006	132,139	△ 403,867	
	法人税、住民税及び事業税	70	70	70	0	
当期一般正味財産増減額	385,391	525,648	122,594	△ 403,054		
(指定正味財産増減の部)					(受取寄付金)	
受取寄付金	116,006	73,329	236,277	162,948	受取寄付金の増加については、遺贈による寄付金の増(159,895千円)が主な要因である。	
基本財産運用益・特定資産運用益	2,575	1,743	1,752	9		
特定資産評価損益等	△ 55	△ 1,481	1,015	2,496		
一般正味財産への振替額	△ 79,361	△ 79,515	△ 78,546	969		
当期指定正味財産増減額	39,165	△ 5,924	160,498	166,422		
正味財産期末残高	2,408,612	2,928,336	3,211,428	283,092		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

仕組債の保有状況	保有総額<令和4年3月31日時点>	保有総額(A)<令和5年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和5年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	9,996	9,943	10,369	426	(減価償却費) 減価償却費の増加については、端末機等の新規リース契約にかかるリース資産減価償却費の増(6,385千円)が主な要因である。
職員人件費	290,310	286,735	279,186	△ 7,549	
退職給付費用	8,831	5,747	8,913	3,166	
減価償却費	22,258	12,567	18,335	5,768	

主要経営指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
公益目的事業比率	公益事業費用／経常費用	91.7%	91.8%	91.5%	-0.3%pt	(流動比率) 流動比率の上昇については、借入金の返済による1年内返済予定長期借入金の減(1,635,000千円)が主な要因である。
人件費比率	人件費／経常費用	50.8%	49.9%	50.2%	0.3%pt	
自己収入比率	自己収入／経常収益	29.0%	25.4%	26.3%	0.9%pt	
流動比率	流動資産／流動負債	158.4%	220.1%	1133.7%	913.6%pt	
借入金比率	借入金残高／負債・正味財産合計	94.1%	92.7%	91.7%	-1.0%pt	

貸借対照表

令和5年3月31日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,723,096,436	4,263,313,485	▲ 540,217,049
1年内回収予定長期貸付金	0	26,000,000	▲ 26,000,000
受取手形	0	383,500	▲ 383,500
未収入金	2,165,703	1,979,302	186,401
立替金	33,646	4,068	29,578
貯蔵品	122,614	97,115	25,499
貸倒引当金	0	▲ 81,120	81,120
流動資産合計	3,725,418,399	4,291,696,350	▲ 566,277,951
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
育英特別基本金	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
奨学貸与金	27,792,212,575	31,535,588,951	▲ 3,743,376,376
奨学事業未収入金	389,748,162	445,869,929	▲ 56,121,767
奨学基金積立資産	10,739,976,115	7,766,996,288	2,972,979,827
教育振興基金積立資産	10,137,152	14,751,292	▲ 4,614,140
退職給付引当資産	43,751,264	42,771,823	979,441
特別損失積立資産	0	30,000,000	▲ 30,000,000
貸倒引当金	▲ 2,524,413,240	▲ 2,661,590,982	137,177,742
特定資産合計	36,451,412,028	37,174,387,301	▲ 722,975,273
(3) その他固定資産			
建物	2,796,133	2,862,448	▲ 66,315
備品	322,122	4	322,118
リース資産	47,773,514	41,203,067	6,570,447
ソフトウェア	9,508,413	15,047,345	▲ 5,538,932
電話加入権	121,800	121,800	0
差入保証金	2,817,000	2,817,000	0
投資有価証券	950,000,000	1,183,000,000	▲ 233,000,000
その他固定資産合計	1,013,338,982	1,245,051,664	▲ 231,712,682
固定資産合計	37,564,751,010	38,519,438,965	▲ 954,687,955
資産合計	41,290,169,409	42,811,135,315	▲ 1,520,965,906

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	75,530,354	88,125,314	▲ 12,594,960
預り金	41,081,679	17,566,490	23,515,189
1年内返済予定長期借入金	187,435,684	1,822,435,684	▲ 1,635,000,000
賞与引当金	11,432,397	11,879,985	▲ 447,588
未払法人税等	70,000	70,000	0
前受利息	0	383,500	▲ 383,500
短期リース債務	13,051,029	9,039,140	4,011,889
流動負債合計	328,601,143	1,949,500,113	▲ 1,620,898,970
2. 固定負債			
長期借入金	37,670,432,514	37,857,868,198	▲ 187,435,684
退職給付引当金	43,751,264	42,771,823	979,441
長期リース債務	35,956,735	32,659,609	3,297,126
固定負債合計	37,750,140,513	37,933,299,630	▲ 183,159,117
負債合計	38,078,741,656	39,882,799,743	▲ 1,804,058,087
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	727,921,853	567,423,633	160,498,220
寄付金	727,921,853	567,423,633	160,498,220
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(627,921,853)	(467,423,633)	(160,498,220)
2. 一般正味財産	2,483,505,900	2,360,911,939	122,593,961
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(12,191,414)	(44,323,947)	(▲ 32,132,533)
正味財産合計	3,211,427,753	2,928,335,572	283,092,181
負債及び正味財産合計	41,290,169,409	42,811,135,315	▲ 1,520,965,906

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
1 基本財産運用益			
基本財産受取利息	479,309	206,000	273,309
2 特定資産運用益			
奨学基金積立資産受取利息	808,171	1,036,059	▲ 227,888
奨学基金積立資産受取配当金	448,220	482,625	▲ 34,405
特別損失積立資産受取利息	600	600	0
特定資産運用益計	1,256,991	1,519,284	▲ 262,293
3 延滞金収益			
延滞金収益	70,327,522	65,296,023	5,031,499
4 貸付金受取利息			
貸付金受取利息	383,500	1,058,057	▲ 674,557
5 受取補助金			
受取大阪府補助金	430,959,282	444,260,649	▲ 13,301,367
受取運営費補助金	415,777,925	425,199,658	▲ 9,421,733
受取奨学事業利子補給補助金	15,181,357	19,060,991	▲ 3,879,634
受取補助金計	430,959,282	444,260,649	▲ 13,301,367
6 受取寄付金			
受取奨学基金	74,310,272	75,290,735	▲ 980,463
受取教育振興基金	2,500,000	2,500,000	0
一般受取寄付金	89,728	0	89,728
受取寄付金計	76,900,000	77,790,735	▲ 890,735
7 雑収益			
受取利息	659,421	329,016	330,405
雑収益	4,679,161	5,719,070	▲ 1,039,909
雑収益計	5,338,582	6,048,086	▲ 709,504
経常収益計	585,645,186	596,178,834	▲ 10,533,648
(2) 経常費用			
1 事業費			
育英特別事業費	80,573,358	82,884,760	▲ 2,311,402
給付型奨学金事業費	74,400,000	75,600,000	▲ 1,200,000
特別奨励金事業費	6,000,000	6,880,900	▲ 880,900
教育環境整備事業費	173,358	403,860	▲ 230,502
支払報奨金	2,721,958	4,312,750	▲ 1,590,792
借入金支払利息	10,781,357	14,660,991	▲ 3,879,634
長期借入金支払利息	10,781,357	14,660,991	▲ 3,879,634
リース資産支払利息	1,882,418	1,009,511	872,907
役員報酬	8,059,228	7,728,824	330,404
非常勤職員報酬	114,243,750	121,937,527	▲ 7,693,777
給料	51,729,437	51,486,700	242,737
職員手当	36,423,936	36,452,657	▲ 28,721
福利厚生費	35,872,841	36,530,690	▲ 657,849
臨時雇賃金	6,027,431	5,984,646	42,785
会議費	14,256	12,096	2,160
旅費交通費	522,126	452,260	69,866
通信運搬費	33,007,014	34,461,056	▲ 1,454,042
手数料	51,169,224	53,484,416	▲ 2,315,192
減価償却費	16,937,063	11,394,941	5,542,122
消耗品費	3,337,684	2,738,255	599,429
修繕費	0	24,948	▲ 24,948

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
印刷製本費	6,826,861	4,480,536	2,346,325
光熱水料費	1,470,044	1,605,479	▲ 135,435
賃借料	15,625,778	18,615,950	▲ 2,990,172
諸謝金	1,552,939	1,525,888	27,051
租税公課	1,924,600	2,328,350	▲ 403,750
委託費	49,202,481	51,625,015	▲ 2,422,534
雑費	2	0	2
賞与引当金繰入額	9,471,083	9,974,968	▲ 503,885
退職給付費用	7,003,342	4,597,693	2,405,649
事業費計	546,380,211	560,310,907	▲ 13,930,696
2 管理費			
役員報酬	916,772	917,176	▲ 404
非常勤職員報酬	7,616,250	7,578,038	38,212
給料	11,451,555	10,921,420	530,135
職員手当	7,718,482	7,403,132	315,350
福利厚生費	3,702,758	3,510,625	192,133
臨時雇賃金	861,061	854,949	6,112
旅費交通費	171,855	81,120	90,735
通信運搬費	534,711	360,348	174,363
手数料	149,200	161,840	▲ 12,640
減価償却費	1,397,813	1,171,809	226,004
消耗品費	319,003	245,439	73,564
光熱水料費	156,280	159,363	▲ 3,083
賃借料	6,298,468	6,734,583	▲ 436,115
諸謝金	2,104,800	1,989,800	115,000
支払負担金	13,000	13,000	0
委託費	1,330,736	897,980	432,756
リース資産支払利息	125,543	100,206	25,337
賞与引当金繰入額	1,961,314	1,905,017	56,297
退職給付費用	1,910,002	1,149,423	760,579
管理費計	48,739,603	46,155,268	2,584,335
経常費用計	595,119,814	606,466,175	▲ 11,346,361
当期経常増減額	▲ 9,474,628	▲ 10,287,341	812,713
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
1 受取補助金			
受取大阪府補助金	59,660,303	74,846,660	▲ 15,186,357
受取償還費補助金	59,660,303	74,846,660	▲ 15,186,357
受取補助金計	59,660,303	74,846,660	▲ 15,186,357
2 貸倒引当金戻入益			
貸倒引当金戻入益	128,937,791	520,819,238	▲ 391,881,447
経常外収益計	188,598,094	595,665,898	▲ 407,067,804
(2) 経常外費用			
1 減免損			
奨学金貸付金減免損	51,799,670	54,681,480	▲ 2,881,810
入学資金貸付金減免損	4,659,835	4,978,823	▲ 318,988
減免損計	56,459,505	59,660,303	▲ 3,200,798
経常外費用計	56,459,505	59,660,303	▲ 3,200,798
当期経常外増減額	132,138,589	536,005,595	▲ 403,867,006

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
税引前当期一般正味財産増減額	122,663,961	525,718,254	▲ 403,054,293
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	122,593,961	525,648,254	▲ 403,054,293
一般正味財産期首残高	2,360,911,939	1,835,263,685	525,648,254
一般正味財産期末残高	2,483,505,900	2,360,911,939	122,593,961
II 指定正味財産増減の部			
1 受取寄付金			
受取奨学基金	236,277,076	73,328,611	162,948,465
受取寄付金計	236,277,076	73,328,611	162,948,465
2 基本財産運用益			
基本財産受取利息	479,309	206,000	273,309
3 特定資産運用益			
奨学基金積立資産受取利息	824,909	1,054,594	▲ 229,685
奨学基金積立資産受取配当金	448,220	482,625	▲ 34,405
特定資産運用益計	1,273,129	1,537,219	▲ 264,090
4 特定資産評価損益等			
特定資産評価損益等	1,014,678	▲ 1,480,721	2,495,399
5 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	▲ 78,545,972	▲ 79,515,419	969,447
当期指定正味財産増減額	160,498,220	▲ 5,924,310	166,422,530
指定正味財産期首残高	567,423,633	573,347,943	▲ 5,924,310
指定正味財産期末残高	727,921,853	567,423,633	160,498,220
III 正味財産期末残高	3,211,427,753	2,928,335,572	283,092,181

6. R4年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)									
戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4目標値	R4実績値 (※1)	ウェイト	得点 (※2)	小計 (※3)	
① 奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保	滞納額	億円	46.9	46.7	44.4	30	30	30/30	【100%】
II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)									
① 奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保	新規滞納者発生率 (新規繰越滞納者数/正常要返還者数)	%	3.8	3.75	3.73	15	15	50/50	【100%】
	滞納者における返還者率 (繰越滞納返還者数/繰越滞納者数)	%	75.6	75.6	75.6	15	15		
② 経済的理由により修学を断念しない環境づくり	給付型奨学金を継続するための寄附金確保	万円	7,333	6,000	6,147	20	20		
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)									
③ 償還金回収コストの削減	償還金回収コスト	千円	324,314	336,118	335,621	10	10	20/20	【100%】
④ 法人運営の安定性確保	正味財産比率 (正味財産/総資産) ※収益事業等会計分を除く	%	5.25	5.25	6.15	10	10		

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
<p>・奨学金制度を将来にわたって持続可能なものとしていくため、「滞納ゼロ作戦」を実施し、滞納発生の未然防止と滞納の長期化防止に努めた結果、新規滞納者発生率の抑制等、貸付資金確保のための取組項目全てにおいて目標を達成することができた。これにより滞納額削減の目標も達成し、継続した滞納対策が一定の成果を上げているものと考えている。今後とも新規滞納者の発生の抑制に努めるとともに、滞納者の状況を適宜分析し、個々の状況に応じたきめ細かい督促を行うなど返還交渉を粘り強く継続的に実施することにより滞納額の削減に努める。</p> <p>・給付型奨学金事業の維持・拡充のため寄附金確保に努めた結果、寄附金額の目標を達成することができた。平成26年度より実施している『夢みらい奨学金』について、引き続き、企業・団体・府民に対し奨学生の声を発信するなど事業の理解を求めるとともに、あらゆる機会を通じて積極的に情報提供を行い、さらなる寄附金の確保に努める。</p> <p>・償還金回収コストの削減に努めた結果、目標を達成することができた。また、正味財産比率については、寄附金の増加や滞納額の抑制による貸倒引当金の減少により、目標を達成することができた。今後とも、償還金回収コストの削減に努めるとともに、法人運営の安定性を確保できるよう、一層の効率的な事業運営に努める。</p>	100

8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言	点数(合計)	役員業績評価
<p>・滞納発生の未然防止と滞納の長期化防止に努めた結果、新規滞納者発生率の抑制及び滞納者における返還率の目標を達成し、最重点目標である滞納額の削減目標も達成することができた。引き続き「滞納ゼロ作戦」を積極的に展開するなどの取組みを通して滞納額の削減を図りたい。</p> <p>・給付型奨学金事業の継続のため寄附金の確保に努めた結果、目標を達成することができた。夢みらい奨学金については、府民からの寄附金に加え、事業に賛同いただいた企業・団体からの寄附金をもとに実施するものであることから、引き続き、府民や企業等に対し、奨学生の声を発信するなど事業への理解を深めてもらうよう取り組むとともに、マスコミにも積極的に情報提供を行い、さらなる寄附金の確保に努められたい。</p> <p>・法人運営の安定性の確保、償還金回収コストの抑制のため管理費等の圧縮など、コスト意識を高め一層の効率的な事業運営に努められたい。</p>	<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最重点目標である「奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保」に関しては、「滞納ゼロ作戦」を実施し、滞納発生の未然防止と滞納の長期化防止に努めた結果、目標を達成でき取組効果が出ている点は評価できる。 ・また、給付型奨学金を継続するための寄附金確保についても目標を達成しており、経済的理由により修学を断念しない環境づくりが出来ている点は評価できる。 <p>(指導・助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞納抑制のための取組みに一定の効果が現れていることから、引き続き滞納者の状況を適宜把握し、個々の状況に応じたきめ細かな督促等を行い、滞納発生の未然防止と長期化防止など、奨学金事業の持続的運営と安定的な法人運営に努めること。 ・一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が不安定となっている世帯が増加しており、今後も貸付事業への需要が増えることが予測されるため、希望する世帯に必要な支援が届くよう、個々の家庭状況に合わせた柔軟な対応に努められたい。 	<p>100</p>	<p>A</p>

9. 「令和5年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(令和5年2月)

- 存続
- ・経済的に困難な状況にある高校生等が修学を断念することがないように教育の機会均等を保障する役割を果たす

10. 経営目標設定の考え方

ミッション

○授業料無償化制度が実施されている中、授業料以外の教育費は増加傾向で推移しているが、府内の給与は減少傾向にあるため、教育費は家計にとって大きな負担となっている。経済的に困難な状況にある生徒が修学を断念することのないよう、引き続き、教育のセーフティネットとしての役割を果たしていく。

- 将来にわたって持続可能な制度としていくための滞納対策の一層の強化
- 奨学金制度を必要とする生徒等への制度周知・利用促進
- 給付型奨学金制度の継続

■ 大阪府の施策

- 教育機会の保障に向けた経済的負担の軽減

基本方針

1 滞納発生の未然防止と滞納の長期化防止

【滞納ゼロ作戦の展開】

新たな滞納者の発生を抑制するとともに、返還意識の向上による滞納発生の未然防止に取り組む。

短期滞納者への督促強化と長期滞納者からの回収促進により滞納の長期化を防止し滞納金の回収に取り組むとともに、回収不能債権の適正管理に努める。

2 奨学金制度を必要とする生徒等への制度周知・より利用しやすい制度運営 給付型奨学金制度の継続

経済的な理由により高校等進学を断念することのないよう、中学校段階での奨学金制度の周知に努めるとともに、家計急変等により就学が困難になった場合には、速やかに緊急貸付を実施するなど、家庭の経済事情にかかわらない就学を支援する。

また、給付型奨学金を継続するため、原資となる寄附金の確保に努める。

3 法人運営の安定化

回収コスト等経費の節減に努めるなど、より効率的・効果的な事業運営に努める。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

①奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保

- 滞納額
【46.9億円(R3実績)→39.8億円(R8)】
- 新規滞納者発生率
【3.8%(R3実績)→3.55%(R8)】
- 滞納者における返還者率
【75.6%(R3実績)→76.0%(R8)】

②経済的理由により修学を断念しない環境づくり

- 給付型奨学金を継続するための寄附金確保
【7,333万円(R3実績)→6,000万円(R8)】

③償還金回収コストの削減

- 償還金回収コスト
【324,314千円(R3実績)→326,283千円(R8)】

④法人運営の安定性確保

- 正味財産比率
【5.25%(R3実績)→5.89%(R8)】

11. R5年度 目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4実績値	R5目標値	ウエイト(R4)	中期経営計画 最終年度 目標値(R8)
① 奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保	滞納額	億円	46.9	44.4	43.2	30	39.8
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)				具体的活動事項			
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○ 滞納対策として、平成21年度から、新規滞納者発生の未然防止や滞納の初期段階からの滞納者への積極的な接触、支払督促等の法的措置などに取り組む「滞納ゼロ作戦」を展開してきた。</p> <p>○ その結果、平成27年度末時点(滞納額のピーク時)で約60.6億円あった滞納額は、令和2年度末には約50.5億円へと減少し、約10億円を削減できた。</p> <p>○ 一方で、10年以上の長期滞納については、令和2年度滞納額が平成27年度に比して増加しており、令和8年度末においては滞納額全体の約50%を占める見込みとなっている。</p> <p>○ このように、より回収困難な債権が多くなっていることから、返還交渉がこれまで以上に難航する厳しい回収環境が予想される。滞納が増大すれば奨学金制度の存続に大きな支障を生じかねないため、滞納の削減に向けた取組みが重要であることから最重要目標とするものである。</p>						<p>○ 滞納の新規発生の抑制 (貸付前の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸付申込時における借用証書の提出により、奨学金の貸付を受けているという意識を生徒自身に持ってもらう。(貸付中の取組み) ・当会職員が高校等を訪問して、生徒に奨学金教育を行うにあたり、教職員等に対して協力を依頼するとともに理事長が学校長等と直接面談し、さらなる協力を要請する。 ・高校等へ当該校の卒業生の滞納率などを記載した返還状況表等を送付し、返還指導や奨学金教育に活用してもらうよう依頼する。 ・当会職員が高校等を訪問して、卒業予定の奨学生に卒業後の返還手続きの説明や奨学金の趣旨・返還の必要性を訴えることにより、返還意識を高め卒業後の確実な返還を促進する。また、今後成人(2022年4月1日から民法上の成年年齢が18歳となった)として金銭貸借や商品購入契約などに関する責任が発生することなどの内容を盛り込み返還義務の自覚を促す。 ・高校等の設置者等へ奨学金の趣旨や返還の必要性等を説明し滞納防止への協力を働きかける。 <p>(貸付後(返還者へ)の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返還意識の向上を図るため、在学猶予中の返還者に対し毎年「残高および返還開始時期等のお知らせ」等を送付する。 ・継続的な返還を確保するため、窓口納付者に対し口座振替への切替えを促進する。
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○ 返還意識の醸成による滞納発生の未然防止、コールセンターや債権回収専門員による返還の督促、さらには長期滞納債権に対する法的措置等による回収強化、回収不能債権の適正管理など、今後も滞納の削減に向けた多様な対策が必要である。</p> <p>○ そのため、様々な専門的知識を有する人材の活用等により、限られた人的・財政的資源をより回収が見込まれる滞納債権へ重点的に振り向ける。</p>						<p>○ 短期滞納者への対策強化(未入金期間1年未満)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返還期日を超えた者(延滞者)には速やかに電話・文書による督促を行う。 ・滞納期間が2カ月以上の者については、連帯保証人に対し借用人が返還するよう勧誘する。 ・滞納期間が3カ月以上の者に対して弁護士名による督促文書を送付する。 ・滞納期間が6カ月以上の者に対して弁護士名による支払督促申立予告を行い、返還に応じない者については、支払督促申立等の法的措置を講じる。 <p>○ 長期滞納者からの回収促進(未入金期間1年以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期滞納者に対して、電話・文書による督促に加え、自宅への訪問を積極的に行うことにより、返還交渉を強化し一層の回収を図る。 ・返還約束者について、常に返還状況を把握し不履行の場合は粘り強く継続的な交渉を続け回収を図る。 ・民間回収会社(サービサー)を活用し効率的・効率的に回収を図る。 ・資力がありながら返還に応じない滞納者に対しては、強制執行による給与や預貯金の差し押さえを行い回収を図る。
活動方針	<p>○ 滞納の長期化などにより、今後の債権回収はさらに困難になることが予想されるため、返還金の確保および滞納額の削減を図る「滞納ゼロ作戦」を重点的に取り組む。</p> <p>○ 回収困難債権が増加する中、これまでの推移から予測すると、本計画の最終年度である令和8年度の滞納見込額は42億円となる見込みであるが、前中期経営計画における削減実績と同程度の削減率を目標とし、2.2億円程度のさらなる削減により令和8年度の滞納見込額39.8億円を目指す。</p>						<p>○ 回収不能債権の償却</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービサー委託により概ね10年以上の全ての長期債権について、債務者の現況等を調査のうえ、真に回収が見込めない債権については債権の償却基準に照らし償却を適切に進める。 <p>○ 奨学金代理返還制度の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の返還方法の拡充のため、奨学金の貸与を受けていた社員の返還残額を、企業が社員に代わって育英会に直接返還することができる返還支援制度(代理返還制度)を促進する。

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4実績値	R5目標値	ウエイト(R4)	中期経営計画 最終年度 目標値(R8)	戦略目標達成のための活動事項
① 奨学金制度の持続的運営に向けた貸付資金の確保	新規滞納者発生率 (新規繰越滞納者数/正常要返還者数)	%	3.8	3.73	3.70	15	3.55	新たな滞納者の発生を抑制するため、初期段階の滞納者に対し集中的に電話・文書等により接触を図り返還を促進する。
	滞納者における返還者率 (繰越滞納返還者数/繰越滞納者数)	%	75.6	75.6	75.7	15	76.0	滞納者に積極的に接触を図るとともに、滞納金額や滞納期間など滞納者の状況を適宜分析し状況に応じた取組みを行う。この取組みを通じて返還を促進・継続させることで、返還者数の増加はもとより、滞納者の捕捉や時効中断など債権の適正管理に努める。
② 経済的理由により修学を断念しない環境づくり	給付型奨学金を継続するための寄附金確保	万円	7,333	6,147	6,000	20	6,000	経済関係団体や企業などに対し、夢みらい奨学金事業の意義や資金確保の必要性について情報提供を行い、寄附金募集周知への協力を依頼する。また、奨学生による街頭募金の実施、ホームページ等で「奨学生の声」を掲載する等、広く府民の方々に関心を持ってもらい寄附の拡大につなげる。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

③ 償還金回収コストの抑制	償還金回収コスト	千円	(324,314)	335,621	335,140	10	326,283	より効率的・効果的な事業運営に努め、回収に係るコストの削減を図る。
④ 法人運営の安定性の確保	正味財産比率 (正味財産/総資産) ※収益事業等会計分を除く	%	5.25	6.15	6.46	10	5.89	償還金、寄付金収入の確保に努め、負債の圧縮を図るとともに、管理費等を圧縮し正味財産の増加に努める。

※ ()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値